

さんのそとぐるわ
岡山城三之外曲輪跡発掘調査現地説明会

岡山市教育委員会
 日時：平成25年7月27日（土）13:30～
 場所：岡山市北区中山下（深砥小学校跡）

はじめに

岡山市教育委員会では病院建設に伴い、平成24年4月より発掘調査を進めてきました。調査の結果、江戸時代の遺構・遺物がみつき、城下町の様子が明らかになってきました。このたび調査がほぼ終了したため、みつかった遺構や遺物を公開することとなりました。

岡山城三之外曲輪について

岡山城下町は、本丸、二之丸、三之曲輪、三之外曲輪のエリアに区分され、後世には外堀の周囲にも広がっていきます。今回発掘調査した地点は三之外曲輪と呼ばれ、外堀と内堀に囲まれた一帯を指します。本丸からは離れていますが、外堀に近く、城郭の出入口の一つである常磐町口門に近いことから、戦略上重要な場所であったと思われます。

江戸時代に作成された城下町絵図によると、調査範囲は、禄高250石～500石程の岡山藩士の邸宅が建ち並ぶ、武家屋敷地であったと記されています。

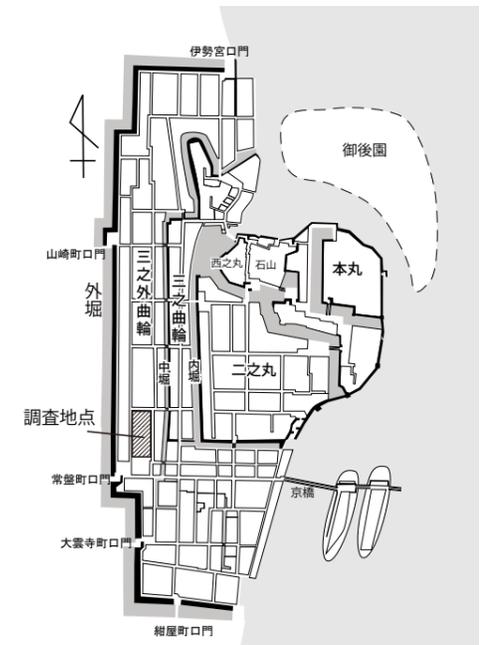


図1 岡山城下町模式図

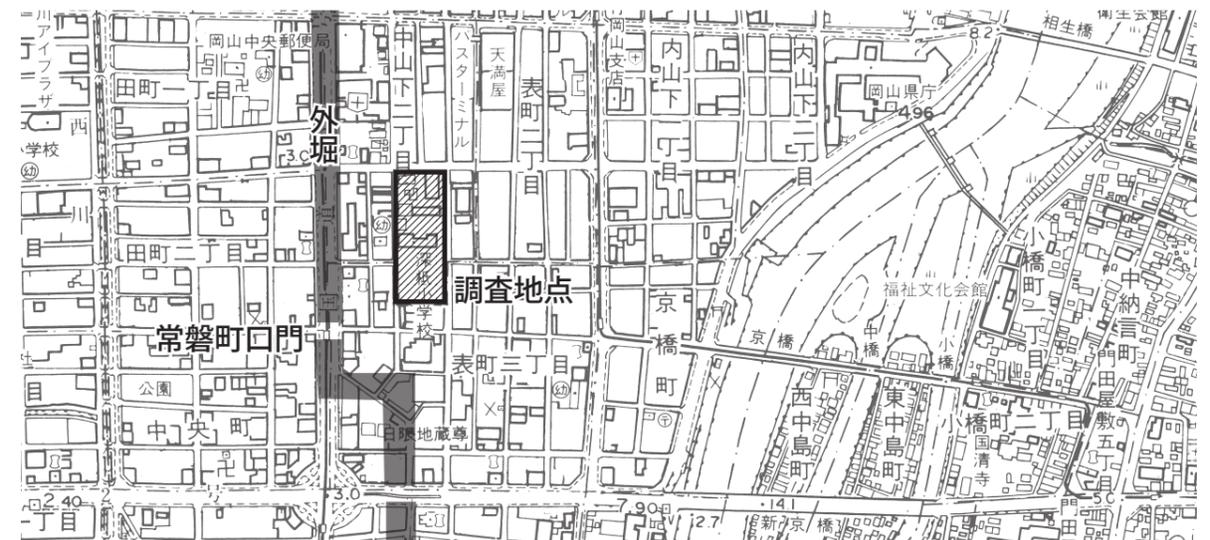


図2 遺跡位置図 (1/10000)

IV区・V区の遺構と遺物

IV区からは、井戸・柱穴列・ごみ穴や屋敷地の境界などが確認されました。遺構の分布に粗密がみられ、遺構が少ないところに建物が存在したと考えられます。遺物は、ごみ穴を中心に、陶磁器類が多数出土しています。これら遺構、遺物の時期は18世紀代と推測されます。

V区では、井戸や、桶を利用した厠・ごみ穴のほか屋敷地の境界になる柱穴や堀が確認されました。出土遺物はIV区と同様陶ごみ穴等から磁器類が多数出土しているほか、堀の埋土中から下駄や人形、箸などの木製品が出土しています。遺物・遺構の時期は18世紀以降のものがほとんどですが、堀とその埋土から出土した遺物は、17世紀代と考えられます。

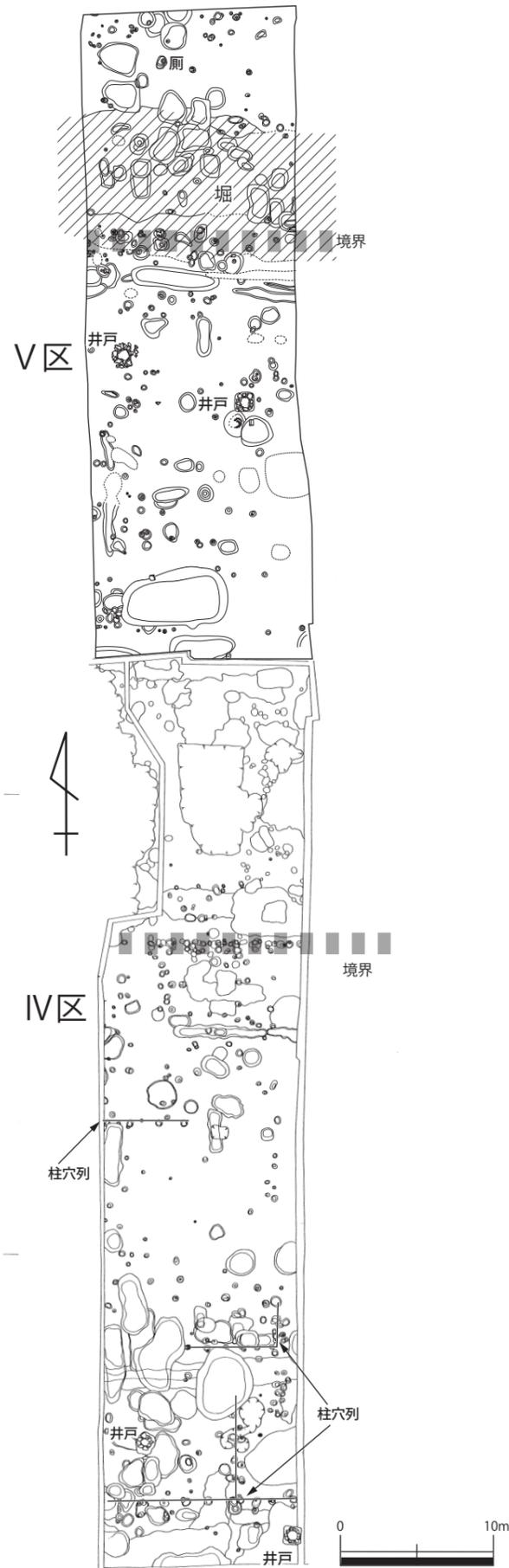


図4 IV区・V区調査区平面図 (1/400)

調査の概要

発掘調査によって、武家屋敷地における生活の様子がわかってきました。みつかった遺構には、井戸、厠、ごみ穴など生活に関わるものや、建物の基礎や土地の境界を示す柱穴列や巨大な堀などがあります。これら遺構の多くは江戸中期（18世紀代）に属するものと思われませんが、巨大な堀は、江戸前期（17世紀代）の遺物が多数出土しています。

出土遺物には、多数の陶磁器のほか、箸や下駄、櫛などの日用品、土製・木製の人形が出土しています。

今回の発掘調査では広大な面積を一度に調査したことによって、複数の武家屋敷にわたって土地利用の状況を捉えることができました。特に、各屋敷地の境界を確認できた点は大きな成果です。

発掘調査で確認された土地の区画について

今回の調査では、17世紀～18世紀の屋敷地の境界が確認できました。境界は、堀・排水溝・柱穴列としてみつかっています。調査地を東西に走る堀は幅が約6mあり、深さは1.5m以上あります。通常の排水溝に比べて大規模な構造です。この堀は17世紀の間に機能し、徐々に埋没していき、18世紀には柱穴列に置き換えられたようです。大きな遺構ですが、岡山藩が作成した絵図には線一本で表現してありました。今回の発掘調査ではじめて発見されました。排水溝は「宝永絵図」に記されているものが確認されました。その起源は出土遺物から17世紀にさかのぼるようです。柱穴列は板塀の基礎と考えられます。

各屋敷地内には多くの穴が掘られています。大きなものはほとんどがごみ穴と考えられます。屋敷地内の遺構の位置から、土地の利用方法が推測できます。ごみ穴は屋敷地の境界付近に集中するケースが多く、遺構が希薄な箇所に建物が建っていたと考えられます。確認した区画と絵図から、各屋敷の敷地は163～427坪程であったと推測されます。

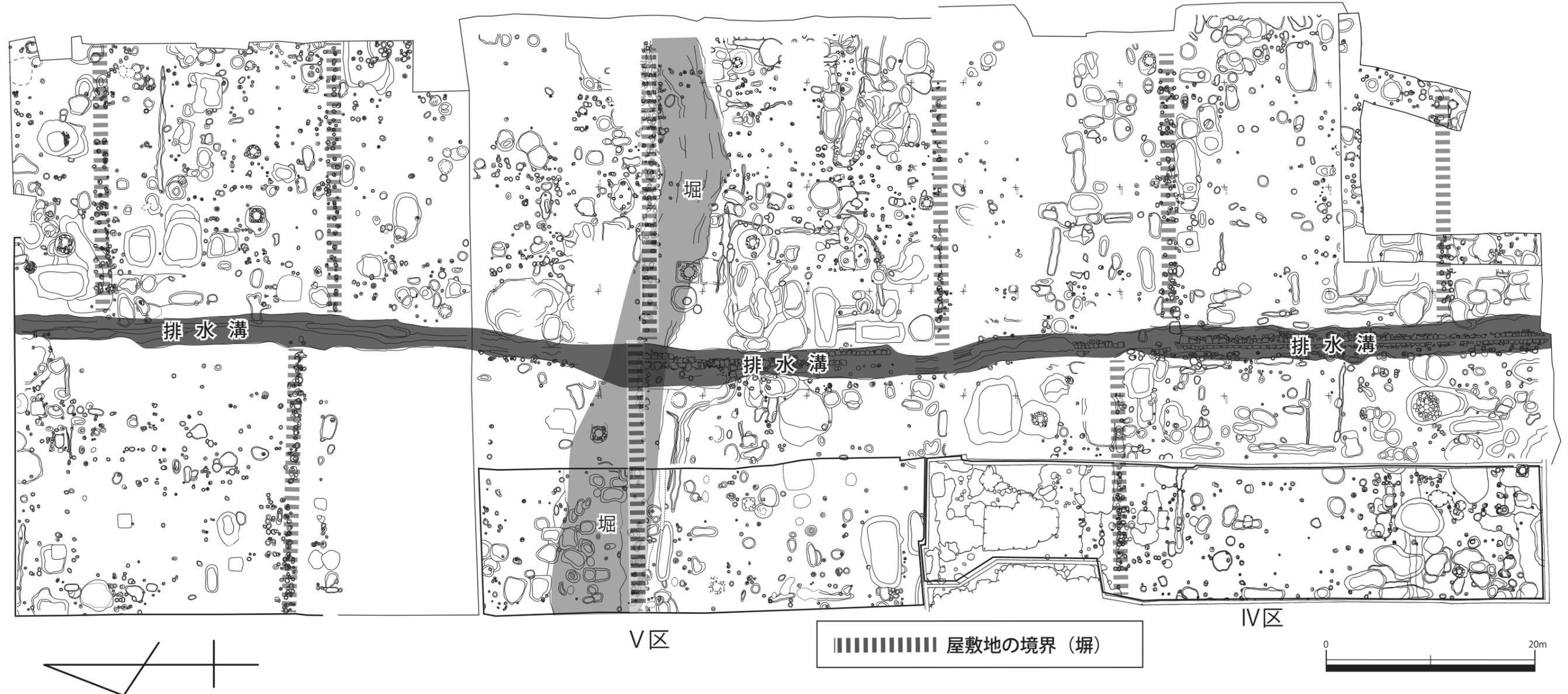


図3 調査区平面図 (1/400)